

授業科目名	ヒューマンコミュニケーション2演習
授業科目名(英)	Principles of Human Communication 2
教員名	百瀬 江、黒川 陽介、坂井 久美子
開講年度学期	2021年度 後期
曜日時限	月曜1限 月曜2限
開講学科	薬学部薬学科
授業形態	演習
単位数	1.0
学年	1年
科目区分	専門科目
単位区分	必修
授業概要	<p>ヒューマンコミュニケーション1演習に引き続き、患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。そのため意思、情報の伝達に必要な要素、相手の立場、文化、習慣等によってコミュニケーションの在り方、また、対人関係に影響を及ぼす心理的要因等に関する事項について学習する。特に、患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できるようにし、患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動できるようにする。その学習のため、スモールグループディスカッション(SGD)を活用する。患者さんや老人など弱い立場の人々が求めるものを、どのように見つけ出し、どのように対応するかをSGDで検討し、次いで実地でどのように生かせるかを体験する。その後、各個人の体験をSGDで検討し、体験を共有する。</p> <p>また、ロールプレイ演習も行う。学生同士のペアを作り、患者役[患者家族役・他職種役(医師等)も含む]・薬剤師役を最低1回は体験する。</p> <p>百瀬担当：ロールプレイ演習(演習に係わる講義・進め方の説明と発表の取りまとめ)を説明する。 黒川担当：授業全体の監督および統括を行う。 坂井担当：演習の講義およびに演習に係わるサポートと、不自由体験学習に関する進め方等説明する。</p> <p>【実務経験教員による授業】 本科目の担当教員である黒川(勤務経験35年)および坂井(勤務経験11年)は、病院薬剤師としての勤務経験があり、服薬指導に関する患者(患者家族等)とのコミュニケーションや、チーム医療における多職種とのコミュニケーションの経験を生かし、各授業の内容に併せて、勤務中経験したコミュニケーションの失敗例や有効であった事例を紹介する。また、コミュニケーションの重要性を勤務経験を交えて伝えていく。</p>
達成目標	<p>1) 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につけることができる</p> <p>2) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できるようにし、患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動できる</p>
成績評価方法	<p>3分の2以上の出席を満たした者が成績評価の対象となる。 以下の1)~5)の項目により総合的に判定する。 最終的に103点満点を100パーセント換算とし、100点満点にする。</p> <p>1) 受講態度及び学習意欲に対する評価：30点 2) 演習に対する評価：40点 3) レポートに対する評価：30点 4) 不自由体験学習レポートに対する評価：3点 * 評価基準の詳細は、授業中に提示する。</p> <p>上記の達成目標を課題に、うえに示す項目と比率で成績を算出し、達成目標の60%以上に達したものを合格とする。 成績評価は大学及び学部が定める成績評価基準によって行う。達成目標の60%に達しなかった者を不合格とする。</p> <p>以下「履修上の注意」にも述べられているように(要精読)不正行為を行った場合は大幅な減点を行い、場合によってはその行為を行った事のみにて実質的に不合格、よって翌年再履修となることに留意すること。</p>
教科書	あらかじめ、学内ネットワーク上に資料をアップする(Moodleシステムによる配布)。
参考書	<p>1) ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション(南山堂)2014.4.5 2) 薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム(羊土社)2012.3 3) 日本薬学会編 薬学総論 I. 薬剤師としての基本事項(東京化学同人)2015.4 4) ヒューマニズム・薬学入門(東京化学同人)2004 5) 基礎から学ぶ 行動科学(薬事日報社)2018.4 6) 薬学生のための基礎シリーズ1 ヒューマニズム・薬学入門(培風館)2012.3 7) 薬剤師のためのコミュニケーションスキルアップ(講談社)2010.9 8) Communication Skills for Pharmacists: Building Relationships, Improving Patient Care 3rd Edition Bruce Berger (Author) 2009.1</p>

履修上の注意	<p>本科目の出欠確認は、講義室にある学生証リーダーに学生証をかざすことは必須とし、それに加えてその他の様々な場面・方法において行う。その結果、学生証の貸し借りによる出席の代理処理（友人の学生証を本人に代わって学生証リーダーにかざすなど）や、学生証リーダーの記録上は出席となっているにもかかわらず、教室には本人が不在である（講義途中での抜け出しなど）、また、本人が出席していないにもかかわらず、レポート等に記名があるなどといった状態は非倫理的であると言わざるをえず、本教科では極めて厳正に対処する。</p> <p>具体的には、当該行為については本人並びに協力者がいた場合は協力者においても1回につき最終成績評価より25%減点する。この減点により、当該不正行為を2回行った場合はその時点で不合格、よって翌年再履修となり、1回行った場合でも、最終成績によっては同様の結果となる可能性がある事に留意すること。</p> <p>本科目は、学生同士ペアを組みコミュニケーション演習を行うため、欠席すると演習が出来なくなる可能性もある。従って、正当な理由がない限り欠席はしないこと。</p> <p>正当な理由で欠席せざるをえない場合は、病気などそれが不可能な場合を除き、事前に申し出ること。</p> <p>注1：本教科の出欠については、特に変更のアナウンスがない限り、原則として同日の連続した2コマ両方に出席した場合を出席一回とみなし、どちらかもしくは両方のコマを欠席した場合は欠席一回とみなす。連続した2コマのうちどちらかだけ出席したとしても欠席扱いになることに特に留意すること。</p> <p>注2：再試は、予定していないので授業を真剣に取り組むこと。</p> <p>またシラバス上に記載された授業計画の日程が前後する可能性に留意すること。日程の変更は随時、講義内でアナウンスする。</p>
授業計画	<p>授業内容 主なモデル・コアカリキュラムの項目</p>
第1回	<p>ロールプレイ演習の目的および概要説明 ロールプレイのペアと班員の割り振り確認 自分の心理状態を意識して、他者と接することについて（態度） 適切な聴き方、質問を通じて相手の考え方や感情を理解するように努めることについて（技能・態度） 「聴き取りと共感をもった返答」①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイ演習：患者役と薬剤師役（不適切な会話例の問題点の抽出と会話例を改善例の検討をSGDで行う）</li> <li>・ロールプレイ演習とレポート提出：患者役と薬剤師役（改善した会話例の発表と他の班の評価：評価採点と良かった点と改善できると思う点の抽出）</li> <li>・教員が全班の良かった点、改善できると思う点をまとめ各班へフィードバックし、学生は各班の意見に対して、会話例を再検討し、レポートを再提出する。（会話例を改善しない場合は理由も記載する）</li> </ul> <p>A-(3)-①-6 A-(3)-①-7</p>
第2回	<p>自分の心理状態を意識して、他者と接することについて（態度） 適切な聴き方、質問を通じて相手の考え方や感情を理解するように努めることについて（技能・態度） 「聴き取りと共感をもった返答」②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイ演習：患者役と薬剤師役（不適切な会話例の問題点の抽出と会話例を改善例の検討をSGDで行う）</li> <li>・ロールプレイ演習とレポート提出：患者役と薬剤師役（改善した会話例の発表と他の班の評価：評価採点と良かった点と改善できると思う点の抽出）</li> <li>・教員が全班の良かった点、改善できると思う点をまとめ各班へフィードバックし、学生は各班の意見に対して、会話例を再検討し、レポートを再提出する。（会話例を改善しない場合は理由も記載する）</li> </ul> <p>A-(3)-①-6 A-(3)-①-7</p>
第3回	<p>他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことについて（知識・技能・態度） 「怒っている患者への対応」①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイ演習：患者役と薬剤師役（不適切な会話例の問題点の抽出と会話例を改善例の検討をSGDで行う）</li> <li>・ロールプレイ演習とレポート提出：患者役と薬剤師役（改善した会話例の発表と他の班の評価：評価採点と良かった点と改善できると思う点の抽出）</li> <li>・教員が全班の良かった点、改善できると思う点をまとめ各班へフィードバックし、学生は各班の意見に対して、会話例を再検討し、レポートを再提出する。（会話例を改善しない場合は理由も記載する）</li> </ul> <p>A-(3)-①-6 A-(3)-①-7</p>
第4回	<p>他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことについて（知識・技能・態度） 「怒っている患者への対応」②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイ演習：患者役と薬剤師役（不適切な会話例の問題点の抽出と会話例を改善例の検討をSGDで行う）</li> <li>・ロールプレイ演習とレポート提出：患者役と薬剤師役（改善した会話例の発表と他の班の評価：評価採点と良かった点と改善できると思う点の抽出）</li> <li>・教員が全班の良かった点、改善できると思う点をまとめ各班へフィードバックし、学生は各班の意見に対して、会話例を再検討し、レポートを再提出する。（会話例を改善しない場合は理由も記載する）</li> </ul> <p>A-(3)-①-6 A-(3)-①-7 A-(3)-①-9</p>
第5回	<p>他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことについて（知識・技能・態度） 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることについて（技能・態度） 「自己尊重のコミュニケーション・アサーション・デスク（DESC法）」①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイ演習：医師役と薬剤師役（不適切な会話例の問題点の抽出と会話例を改善例の検討をSGDで行う）</li> <li>・ロールプレイ演習とレポート提出：医師役と薬剤師役（改善した会話例の発表と他の班の評価：評価採点と良かった点と改善できると思う点の抽出）</li> <li>・教員が全班の良かった点、改善できると思う点をまとめ各班へフィードバックし、学生は各班の意見に対して、会話例を再検討し、レポートを再提出する。（会話例を改善しない場合は理由も記載する）</li> </ul>

	A-(3)-①-6 A-(3)-①-8 A-(3)-①-9
第6回	<p>他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことについて（知識・技能・態度） 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることについて（技能・態度） 「自他尊重のコミュニケーション・アサーション・デスク（DESC法）」②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイ演習：医師役と薬剤師役（不適切な会話例の問題点の抽出と会話例を改善例の検討をSGDで行う）</li> <li>・ロールプレイ演習とレポート提出：医師役と薬剤師役（改善した会話例の発表と他の班の評価：評価採点と良かった点と改善できると思う点の抽出）</li> <li>・教員が全班の良かった点、改善できると思う点をまとめ各班へフィードバックし、学生は各班の意見に対して、会話例を再検討しレポートを再提出する。（会話例を改善しない場合は理由も記載する）</li> </ul> <p>A-(3)-①-6 A-(3)-①-8 A-(3)-①-9</p>
第7回	<p>患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動することについて（態度） 「患者と生活者と薬剤師（患者や家族の心理、価値観の多様性と配慮）」①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイ演習：患者家族役と薬剤師役（不適切な会話例の問題点の抽出と会話例を改善例の検討をSGDで行う）</li> <li>・ロールプレイ演習とレポート提出：患者家族役と薬剤師役（改善した会話例の発表と他の班の評価：評価採点と良かった点と改善できると思う点の抽出）</li> <li>・教員が全班の良かった点、改善できると思う点をまとめ各班へフィードバックし、学生は各班の意見に対して、会話例を再検討しレポートを再提出する。（会話例を改善しない場合は理由も記載する）</li> </ul> <p>A-(3)-②-1 A-(3)-②-2</p>
第8回	<p>患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動することについて（態度） 「患者と生活者と薬剤師（患者や家族の心理、価値観の多様性と配慮）」②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイ演習：患者家族役と薬剤師役（不適切な会話例の問題点の抽出と会話例を改善例の検討をSGDで行う）</li> <li>・ロールプレイ演習とレポート提出：患者家族役と薬剤師役（改善した会話例の発表と他の班の評価：評価採点と良かった点と改善できると思う点の抽出）</li> <li>・教員が全班の良かった点、改善できると思う点をまとめ各班へフィードバックし、学生は各班の意見に対して、会話例を再検討しレポートを再提出する。（会話例を改善しない場合は理由も記載する）</li> </ul> <p>A-(3)-②-1 A-(3)-②-2</p>
第9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つのロールプレイ演習のまとめ（評価点の高かった班のロールプレイを再び発表する）</li> <li>各ロールプレイ演習における質問疑問・教員の実務経験も含め紹介する</li> <li>・不自由体験学習（視覚障害：アイマスク、聴覚障害：耳栓+手で耳をふさぐ等、身体障害：車椅子体験、疾患体験：統合失調症（動画）、認知症（VR動画）、視覚障害（VR動画）</li> </ul> <p>SGDテーマ「どんな気持ちか？（不便や不自由以外の気持ち・介助したときに感じたこと・介助されときに感じたこと）、薬剤師として何に気を付ける？今回の体験をどういするか？」 *グループレポートを提出する。</p> <p>A-(3)-①-6 A-(3)-①-7 A-(3)-①-8 A-(3)-①-9 A-(3)-②-1 A-(3)-②-2</p>
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
注意	
オフィスアワー	在室の時間であれば可能であるが、事前に担当教員の予定を確認しておくこと。
ナンバリングコード	
授業コード	99P4012